※無断転載と無断編集は禁止

# 地域猫活動の「あるある」

なんだか迷路に入り込んでしまうことって、ありますよね

地域猫活動アドバイザー 石森信雄

## 地域猫活動「あるある」

- 1 行政担当者が3年で異動。そしたら元の木阿弥に。
- 2 行政が、なんでもかんでもボラに押し付ける。
- 3 ボラが「行政がやるべきことをやってあげている。 行政は自分たちの要望を聞くべきだ。」と不平不満。
- 4 行政担当者が捕獲までしている。ボラは喜んでいるが、それで本当にいいのか?
- 5 ボランティアが動物愛護一辺倒の言動を繰り返し、 住民と行政が困っている。
- 6 ボラ同士が非難合戦。

# 「あるある」になってしまうのはなぜ?

- 1 「ノラ猫問題は、地域の環境問題。 主役は地域住民。地域の問題、地域で解決。 これを行政やボラ団体が支援する。」 ボラ団体も行政も、このことが分かっていない。
- 2 ノラ猫問題を行政としてどう対応するか、きちんと施策として決まっておらず、担当者個人の行動に 委ねられている。
- 3 行政もボラも、三者の役割分担が分かっていない。
- 4 地域猫活動のコンセプトや手順が書いてあるような、誰でも参照できる「手引書」がない。 あるいは、セミナーなどの勉強会が行われておらず、 皆が地域猫活動のことを自分好みに解釈している。。

### 改めて役割分担を確認しよう

#### 地域ボランティアと行政が直接協働する場合



地域課題を解決する地域ボランティアさんが活動 しやすいように、後方支援します。 行政広報や、町会との調整、難しい苦情の対応など、 「役所にしかできない」役割を担います。



地域ボラン ティア 自分の住む狭い地域のノラ猫問題を、近隣に声をかけながら解決します。

行政の後ろ盾があるので理解を得やすいです。 不安だらけですが、行政担当が相談に乗ってくれる ので、頑張ろうと思います。



長年の懸案の解決に取り組んでくれる人が、近隣 から現れて助かります。もちろん協力しますよ。

地域の一般住民

### 改めて役割分担を確認しよう

#### 自治体内にある地域猫活動専門団体と連携する場合 ①



地域課題を解決する地域の方を、団体さんと連携しながら後方支援します。

行政広報や、町会との調整、難しい苦情の対応など、「役所にしかできない」役割を担います。



行政の後ろ盾の下で、地域の話し合いのコーディネートや、技術的な支援などをします。 地域の方が自己解決できるよう、心がけます。



町会自治会など

専門団体さんのコーディネートで、地域のみんなで話し合いました。色々教えてくれたので、とにかくやってみようと思います。

### 改めて役割分担を確認しよう

#### 自治体内にある地域猫活動専門団体と連携する場合 ②



地域課題を解決する地域の方を、団体さんと連携し ながら後方支援します。

行政広報や、町会との調整、難しい苦情の対応など、「役所にしかできない」役割を担います。

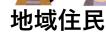


地域の中で課題解決ができるよう、行政の後ろ盾の 下で、地域ボランティアさんの発掘と育成をします。

地域ボ<u>ラ</u>ンティア

団体さんに教えてもらいながら、頑張ってみようと 思います。行政の後ろ盾もあるので心強いです。

長年の懸案の解決に取り組んでくれる人が、近隣から 現れてくれて助かります。もちろん協力しますよ。。



### 「そんな、理屈どおりにはいかないよ~」の声



話と違って、全然、うまくいかない・・・ どうしてこうなっちゃうのかな すっごく丁寧に活動しているのに、 役所は分かってくれないし、住民も全然理解 してくれないし・・・ あんな人たちとパートナーになんてなれない



話と違って、全然、うまくいかない・・・ どうしてこうなっちゃうのかな ボランティアさんは住民そっちのけで猫愛護 活動をしているし、住民からは相変わらず苦 情だらけだし・・・

### 「うまくいかないな~」と煮詰まってしまったら

1 まずは、肩の力を抜こう

思い詰めていたら、いいアイデアは浮かばない。 思い詰めている様子は顔に出るので、余計にうまくい かなくなる。

2 とりあえず勉強会(セミナー)をやろう

セミナーには、ボランティアと行政関係者の両方が 出席することがポイントです。

たかがセミナーと侮るなかれ、セミナーをきっかけと して物事が前に進んだ事例が多数です。

関係者の頭の中が、共通の考えで統一され、整理されるのです。

ホントかなぁ。 またうまいこと言って。